

Title	蘇連新々経済政策以後
Sub Title	
Author	小泉, 信三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1930
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.24, No.12 (1930. 12) ,p.1873(1)- 1899(27)
JaLC DOI	10.14991/001.19301201-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19301201-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

十一月號

成

日本成人教育協會發行

人

定價 金廿五錢

第五卷 第十一號

講	話	史談	時事說明	讀物	漫	錄
◎我が國民思想變遷の概要	◎日本近代社會思想史	◎政争に利用された英國公使	◎米國の上院下院	◎地方自治制度概説	◎行爲能力の話	◎爲替相場の變動と金
野村兼太郎	加田哲二	板倉卓造	潮田江次	淺井清	小池隆一	金原賢之助
			◎近東の旅	◎財源難と公債	◎指環と書卷「物語」	◎俳諧の話
			占部百太郎	常松三郎	石井誠	横山重
					◎秋の霧	◎渡り鳥の話
					渡邊英一	宇都宮爽平
						◎學校騒動について
						◎編輯室より
						西原和治

發賣所 東京市麻布區大岡山書店

三田學會雜誌 第二十四卷 第十二號

蘇聯新々經濟政策以後

小泉信三

ソキエト聯邦蘇聯政府は一九二一年に一度農民に讓歩して新經濟政策を採用し、一九二五年に再び讓歩して新々經濟政策を定めた。私は此讓歩は更に引續いて繰り返されることだらうと豫想して一二の機會にさう書いたこともある。(拙著「マルクシズムとボルシエキズム」參照)。所謂「戰時共產主義」から營利主義への退却は更に繼續されて、新々經濟政策の次に更に幾度も新々々々經濟政策が採用されるであらうと豫想したのである。而して此豫想は、當時に於ては其の充分の理由を持つものであつた。トロツキイ其他の左翼反對派に對して蘇聯共產黨首腦

者の示した態度黨の代表的理論家の如く目されたブハリンの言論等を見れば、斯く豫想するといふことに少しも不自然はなかつたと思ふ。然るに事實は豫想と正反對に出でた。スタリンは急速なる農業社會主義化の方針を定めて、寧ろ彼れに依て驅逐せられたトロツキイの足跡を追ひ、之に反對して、營利主義の寛假に依て更に一段生産力の増進を圖るべしと主張したブハリンは、却て失脚して共産黨幹部から却けられた。農業社會主義化といふのは、主に農民を共營農業(コレクティブ)に依つてコルホスに組織して、略してコルホスへ糾合することを指して謂ふ。此運動は殊に昨年から今年の春にかけて活潑に行はれ、一方其成績には大に見るべきものがある。傳へられると共に、他方では農民が此運動に反對して、盛んに家畜の屠殺、農具の投賣が行はれてゐるなども傳へられた。私は遠方から此の形勢の變轉を見聞しながら暫らく此に關する信頼すべき材料の乏しいことを憾みとした。

滿鐵調査課は先年來露西亞事情を明にする爲め價值ある幾多の報告書、資料等を刊行し、最近に於ては露亞經濟調査叢書及び勞農露國研究叢書を發行して露西亞事情闡明の爲めに多大の貢獻をしてゐるが、今年五月以來更に新に月刊雜誌「ソヴェート聯邦事情」を發刊して研究者の餓渴を充たすことに數十歩を進めたのは誠に感謝に堪へぬ所である。此雜誌が毎號掲載する新鮮正確且つ極めて豊富な報道は、本誌をして我邦の蘇聯研究者無二の侶伴たらしむるは勿論、歐米諸國に於ける同種刊行物の間に伍して優に其の最高位の一を占めしむるに足るものである。右記の農業社會化運動に就いても、幸ひにして本誌は之を報道すること最も詳細である。殊に編輯主任者宮崎正義氏の執筆に係る初號以來の連載論文「ソヴェート聯邦の農業社會主義化政策」穀物恐慌救濟策としての共營農業政策「小農壓迫政策としての共營農業政策及其對富農關係」農村社會主義化政策と中農及貧農「蘇聯第十六回共産黨大會と同國の現状」蘇聯の共營農業に於ける分配と勞銀の問題」は研究者必讀の文字と謂はねばならぬ。宮崎氏は蘇聯政府の政策を是認せず、コルホス運動の前途に悲觀的論斷を下してゐる。固より此判斷其者並に其論據に對しては随分批評の餘地もあらう。併し乍ら、此問題に就いてこれ程最新且つ豊富なる原資料に基づいて書かれたものは、今迄の處他には見當らぬ。私見によればコルホス運動の結果に對しては未だ終局的批判を下すべき時期に達し

てゐない。昨年から今年へかけてコルホスは先づ夥しい參加者を次いで夥しい脱退者を見たといふ。今に於てはその何れを此運動の終局的成績と見ることも早計であらう。従つて本篇は一篇の論文の體を成してゐない。私はたゞ主としてソウエート聯邦事情の記載に資料を仰ぎ、旁ら Die Volkswirtschaft der U. S. S. R. (Halbmonatschrift),—O. Domanevskaja, Agrarsozialismus in Russland. (Die Gesellschaft Jahrg. VII, Nr. 4) 酒匂秀一氏著「ロシアはかうなる」。A. Jugow, Die Volkswirtschaft der Sowjetunion und ihre Probleme.—G. Grinko, Der 5. Jahrlan der Sowjetunion 1930 等を参照し、コルホス運動経過の輪廓を描いて前年本誌に掲げた「勞農露西亞の農民問題」(第二十卷第八號)の記載を補ふことを以て満足する。

蘇聯政府に農業社會主義化の實行を決意せしめたものは、最近に於ける穀物買付の不成績であるといふ。然らば穀物の買付は何故困難になつたのであるか。

新經濟政策及び新々經濟政策の採用が農業生産力を増進せしめたのは疑なき事實である。然るに此の生産力の増進(恢復)は、或程度迄來て阻止せられた。それ

は主として農民經濟の自由なる發展がソキエト經濟の資本需要と衝突したからである。蘇聯政府は工業生産力の發展を計劃するけれども、之を爲すには巨額の資本を調達しなければならぬ。それを何處に求めるかといふと、結局之を主に農業に負擔せしめなければならぬ。併し農民の餘剰産物を強制的に徵發するといふ方法に就いては、政府は既に一度失敗して苦い經驗を嘗めてゐる。そこで新經濟政策の下では稍々違つた方法が擇ばれた。課税、募債、就中所謂「鉄」ノオジニツイ(がそれである。「鉄」とは工業製品の價格を高く、農産物價格を低廉に定めて、以て農村の資本を工業に吸収せんとする手段である。今一つの方法は紙幣發行である。政府は紙幣を印刷することに依て工業建設の資本を調達しようとした。そこで商品缺乏、貨幣價值の下落が起る。此に於て農民はその作物を保藏して、賣却することを肯んじなくなる。又農産物生産額の増加の勢も緩漫となつた。

穀物の作付面積に就いていふと、一九二五—二六年のそれを一〇〇とすれば、其翌年度の一〇七、一、更に翌々年度は前年度の一〇一、九%となり、又穀物の總收穫高に就いていふと、一九二五—二六年のその一〇〇に對して其翌年は一〇五、一

九二七—二八年度のは前年の九四%に下がった。而して此間に人口は依然として増加し、戦前の一九一三年と一九二七年とを取つて比較すれば、一億三千九百萬人が一億四千九百萬人に増してゐる。これでは商品として市場に提供せらるゝ穀物量が減少するのは當然である。今年開かれた蘇聯共産黨第十六回大會に於けるスタリンの報告によつても、一九一三年に於ける穀物の市場提供量を一〇〇とすれば、一九二七年のは三七%、一九二八年のは三六%にしか達して居らぬ。戦前の成績と比較して斯の通りであるのみならず、政府の穀物買付計劃と比較しても、一九二五年以降一九二九年に至る期間に、大體に於て実績は計劃の五割強を充たすに過ぎず、一九二七—二八年度の如きは四割にも達してゐないといふ始末である。此状態の儘で進むことは何人の目にも不可能であつた。

斯の如くにして蘇聯政府は一九二七年の終りに重大なる問題に當面した。個人の營利的活動を一層自由にし、農民を犠牲にして行ふ人爲的工業化の政策をば放棄し、農民の負擔を軽減し、「鉄」を閉ぢ、紙幣増發を廢するか、將た又その正反對に出るか、何れかに決せねばならぬ。

一九二八年中、政府は農民に其保藏穀物の賣却を求め、従はざる者を罰金、投獄、財産沒收、居村からの追放を以て脅した。是等の處分は、素と農村ブルジョワたる所謂クラアクに對してのみ加へらるべき筈であつたが、農民の階層別が實は明確でないから、被害は一般農民に及んで、その農業經營の擴張を阻害した。

此序でに露西亞農村人口の階層別に就いていふと、此に關する學者専門家の算出は様々であるが、姑らく統計中央局の記載に従へば、一億二千萬人の農村人口は左記の諸層を以て構成されて居る。

農業プロレタリア 百萬
三・四

小農 三四・〇

中農 五二・〇

有福農 一一・〇

富農 五・〇

農業に従事せざる者 一四・〇

右の中の農業プロレタリアは、大體賃傭に依て生活するものと見て好い。小農と

いふのは二デシヤチン以下の土地を耕し、馬も農具も有せず、その耕作に依て收める所得はその生活を支へるに足らぬから、他人に傭はれ、若しくは農業以外の労働に依て之を補ふ農民層である、此層は労働家畜や農具を他人から借りて耕作し、又其土地を他人に賃貸するものが多い。中農とは、自己及び家族員の労働に依て辛うじて生活を支ふる者、及び農耕に依て少額の利潤を收むる者である。此部類に屬する者は、其労働力を充分利用する爲め、他人の土地を借り足して耕作するが、労働者を傭使するのはたゞ收穫季のみに限る。有福農に屬するものは六乃至十デシヤチンの土地を有し、自家の労働に依て耕す限りに於ては充分なる家畜農具を有する。富農は十デシヤチン以上の土地と自家必要以上の家畜農具を有して、之を個人に賃貸する。此の最後の二部類は何れも他人から多くの土地を借り足して耕作し、賃銀労働者を傭使し、又商業、農産物の買入れに従事するのを常とする (Jugow, S. 150-151)。

斯の如く階層別は立てられるが、固より此分界は嚴密なものではあり得ないから、クラスに對する迫害は事實上殆ど常に獨立農民の全體に加へられるといふ結果となる。そこで農産物獲得の鬭争は激甚となり、遂に食料當てがひ、切符制度も再び採用せらるゝの已むなきに至つた。工業原料の供給状態も劣悪となつた。而して是に處すべき方法に就いて、前記の如く共産黨幹部の間に説が岐れ、ブハリン其他右翼の者は小農經濟の安定、「商品取引の伸長」正常なる市場關係の復活に打開の方法を求めようとしたのであるが、スターリンに従ふ多數者は、農業社會主義化の途を擇んだ次第である。農業社會主義化の方法は、一方では穀物製造工場ともいふべき國營農場(ソウホス)を組織すること、他方では多數の農家を一種の農業生産組合たるコルホスに糾合することである。

ソウホスの目的は、主として資本又は新式機械缺如の爲め個人農民の企て及ばぬ新耕地の開発をなし、又大規模經營の模範を示すことにあるやうである。或視察者が一國營巨大農場に就いて記す所は下の如くである。「播種面積は一九三〇年度は二六、〇〇〇ヘクタアル、一九三一年度は五二、〇〇〇ヘクタアルである。常備の労働者は三〇〇人、收穫時には八〇〇人である。此の少なき員數に注意せよ。これは三十三臺のコンバイン即ち播種打穀機(加奈陀流)と百二十臺のトラクタ

アが働いてゐるからである。一臺のコンバインは僅に三乃至四人の勤務を要するに過ぎず、而して二十四ヘクタアルをば十六時間内に刈取り且つ打穀する。其以外に十臺のカタピラアがある。此巨大農場は八所のステエションを有する。

一棟の穀倉は建設中である。二十臺の重自動車は荷物の運搬に當り、二臺の乗用自動車が役員用の用を辨ずる云々(Die Volkswirtschaft der U. S. S. R. Nr. 15, 1930, S. 19)。

此種の國營農場の數は何うかといふと、一九二九年に露西亞各地に組織せられた穀物農場が五十四に上り、一農場の平均面積は四二、〇〇〇乃至四三、〇〇〇ヘクタアル、大きいものになると一二〇、〇〇〇乃至一二七、〇〇〇ヘクタアルに上るものがあるといふ(O. Domanevskaja, S. 329-330)。スタリンの報告を見ると、所謂五年計劃で國營農場の播種面積を五百萬ヘクタアルに達せしめる豫定であつたが、第三年たる明年度に於て既にそれが八百萬ヘクタアルに達せんとしてゐるといふ事である。國營農場の成績に就いては、農業機械及び専門指導者の不足が訴へられてゐる。ソウホスは元來新式機械を用ゐて大規模經營を實行せんとするものであるが、第一にトラクタアが不足を告げてゐるらしい。一九二八―二九年にはトラ

スト化せられたソウホス面積中その六〇、六%のみがトラクタアに依て耕作せられた。コンバイン打穀刈入機械の不足に至つては一層甚しく、一九二九年には全ソウホス面積の九八%の用を辨ずるに過ぎなかつた。如何に増加せしめても、一九三〇年に其利用を全面積の四八、八%以上に及ぼすことは不可能であらうといふ。同時に専門技術家及び熟練労働者が缺乏せる爲め機械の破損が頻繁で、且つその修繕が難澁するといふことを聞く。以上の數字はソキエト反對者(O. Domanevskaja, S. 329-330)の引用に係るものであるが、兎に角國營農場でもコルホスでも、農業機械及び之を取扱ふ専門家の不足に惱んでゐることは諸種の報道に現れてゐる所で、疑なき事實であらう。

次にコルホスに就いていふと、共產黨政府は是に依て小規模なる個人的農業經營を大規模なる集合經營に一變せしめると共に、是に依て共產黨に取つての脅威たるクラアクを殲滅せんことを期したのである。

コルホスはその共同組織の深淺、即ち個人經營からの遠近に由て大凡そ三種に

分つことが出来る。最も組織の浅い共同耕作組合(ソウメストナヤ・オブラボトカ・セムリ)之に次ぐアルテル、最も個人經營から遠いコムニオンがそれである。ソオスにあつては播種、耕作、收穫等生産の共同が行はれて、生産手段は全然個別的所有の儘に委せられる。或は曰ふ、土地及び最も重要な生産手段は集合占有に移される。アルテルにあつては、農民の住宅、自家用の菜園、家畜の一部(乳牛、豚等)家禽を除き、土地並に一切の農具、労働家畜が共同に移される。而して更に一步を進めて、畜に生産のみならず、消費も亦共同(共同住居、共同炊事等)に行はれるのが農業コムニオンである。政府の方針は此中のアルテルをコルホス基本形態とする。

コルホスへの参加は始めから農民の自由意思に由てせらるべきものと定められた(一九二八年七月共産黨中央委員會總會決議)。然らば農民のコルホスに對する態度如何。農民は何物に誘はれてコルホスに参加するのであらうか。

労働家畜及び充分の農具を持たぬ最下層の農民は大體コルホス参加に賛成である。と見て好からう。それはコルホスに於て現状に比してより良き生活をなし得ると期待するからである。農耕に依て満足なる生活を営むことを得ず、都會へ

出ても確實な仕事を見出す當てがないといふ農民は、喜んでコルホスに加入するであらう。コルホスで食料當てがひの與へられる丈けでも多くの貧農に取つては充分の牽引となる。

中農に至つては自立自營を欲する念慮が強いから、概してコルホスへの参加を喜ばぬ。彼等の希望は自己の土地を自ら耕し、成るべく其土地の面積を擴げ、能ふべくくればクラアクの境涯に到達することにある。故に後述の如く、多數の中農がコルホスに赴いたのは、其自由意思に由るのでなくて、種々の壓迫を蒙つたのである。ことは殆ど疑なき事實である。而してスターリン以下共産黨幹部も之を認めて居る。彼等が今年三月地方黨員に對してコルホス運動に就いての「逆上」を戒め、運動の緩和を指令したのが其證據である。壓迫の方法は種々ある。不參加者に對して不利なる耕地整理、課税を重くすること、工業品の供給上、又穀物買上に不利の取扱をすること、又参加を肯んぜぬものをクラアクを宣言し、投獄、追放、財産沒收を以て之に臨むこと等がそれである。

斯の如く好まぬものをコルホスへ強制する結果の一が夥しい家畜の屠殺、農具

の投賣となつて現れた。政府は之を禁止したが、抑も何故に此等の事が起るかといふに、農民の身になつて見れば農具や家畜を携へてコルホスに参加しても個人的に何等の利益を受けないから、寧ろ之を賣却して其代金を懐にした方が利益だと思ふのは當然である。又中農としては、貧農やプロレタリアが何も持たずに参加するのには、自分達ちだけ農具や家畜を持つて加入しては損だといふ考へもある。

クラアクは如何といふに、クラアクに對しては蘇聯政府は最近極度の迫害を加へて之を農村から一掃しようとしてゐる。クラアクも之に對して抵抗を試み、兩者の關係は極めて尖鋭となつてゐる。政府は一方クラアクの反共産勢力を恐れ、そのコルホスに参加することを禁じ、昨年十一月の共産黨中央委員會總會の決議中にもクラアクをコルホスに参加せしめざるは勿論、猶ほこれより一掃せねばならぬことを言つて居る。同時に他面に於てその存續を不可能ならしむべき方法を講じてゐる。即ち今年二月一日發布の法令に依て(一)大衆的コルホス運動の行はるゝ地方に於て土地賃貸借許可及び私營農業に於ける雇傭労働許可に關する法令を廢止すること。(二)コルホス運動の行はるゝ地方に於て政府機關に對し

クラアクの一切の鬭争方法——財産沒收及び移住を含む——を適用する權能を附與することを定めたのである。併し富農と中農との區分線の明確でないことは前述の通りであるから、富農迫害政策は中農時としては貧農をも被害者にした。此事も黨の指令中に認められてゐる。

然らばコルホス運動の成績は何うであつたか。コルホスに参加する農家の數は驚くべき速度を以て増加して、今年春には一度びその總數の過半を糾合した。即ち一九二七年の始めにはコルホスの總數一四、八三三。一九二八年の五月一日には三三、一六一。一九二九年十月には約六〇、〇〇〇。一九三〇年三月一日には一〇〇、〇〇〇に達した。而して之に参加した農家の數は一九二九年十月には一百万、一九三〇年二月一日には八百萬、一個月後の三月一日には一千數百萬に上つてゐる。此の最後の數字に就いては報道者に依て僅許の出入があるけれども、前記宮崎氏によれば、参加農家數は一千四百二十六萬四千三百戸、その聯邦總農家數に對する比率は五五%である。

元來コルホスは革命の當初にも一度都市からの歸村労働者と貧農とを以て組織せられたことがあつたけれども、新經濟政策採用後は漸次に凋落した。前記の急速なる發達を遂げたのは無論政府の促進によるものである。後述の如く上記の數字は人工的に造り上げた部分があつて、その儘維持することは出來ないことが明になつた。併し兎も角右記の事實は驚くべき成績といはねばならぬ。共産黨員がこれを見てスタリンの所謂「好成績による逆上」に陥つたのも無理ではない。

コルホス經營に依る生産力の増進は如何であらうか。コルホスの組織に依つて、耕地交錯を整理して、耕地細分の弊を除き得る限りに於て労働の生産力を高める効果のあるべきは疑を容れぬ。併し乍ら數千ヘクタアルの面積を耕すコルホスは充分なる機械動力の備はるを俟つて始めて其効果を擧げ得べきものであるのに、現在に於て其の農業機械が國內の製造に依ても外國からの輸入に依ても之を必要の程度に於て供給することが出來ぬ。例へばトラクタアに就いて見ると、コルホスの發達が急速であればある程其不足は愈々甚しくならざるを得ぬ。即ち一九二八年にはコルホス全耕作面積の七一・二%がトラクタアに依て耕された

のであるが、此の百分比は一九二九年には四三・二%となり、更に一九三〇年三月半には僅に一〇%を超えざる程度に下がつたさうである(Domanewskaja, S. 341)。別の報道によれば、今年一月イズデスチャ紙の社説は労働家畜の投資屠殺の不可なることを攻撃する處で斯ういつて居る。「トラクタアの供給は非常に急速なるテンポを以て行はれてゐるが、併し乍ら尙ほトラクタアの牽引力は全國牽引力總量に比して三%を超えぬ。即ち大部分は労働家畜に依らねばならぬ所以である」と(「ソウエート聯邦事情」第二號第六頁)。若し此通りであるならば、それは全國の農家が今直ちにコルホス又はソウホスに参加した場合には、その九七%は全然トラクタアを有せざることを意味する。此事は當然機械の充分なる設備を期待してコルホスに参加した農民等を失望せしめざるを得ない。一旦コルホスに参加した多數の農民が再び此から脱退した原因の重なる一は此の農業機械の缺乏である。

そこで始め機械の重要なこと切言した労働當局者の間には、機械は備はらずとも、共同經營其者が生産力を増進せしめると主張する者が出た。併し果して機

械なきコルホスが集約的なる個人經營とよく相匹敵するや否や、これは頗る疑はしい。個人農業では舊式の農具を使用してゐるが、其代り所有の本能は農民をして極度の勤勉を以て耕作の事に従はしめる。その刺戟がコルホスでは失はれるのである。

第一にコルホスに参加した農民自身が果して其處に満足して留まるか否か。此點に就いて三月以後に於けるコルホス脱退者續出の事實は充分注意して觀察する必要がある。

四月の頃に早くも参加者數の減少は現れたらしい。スターリン自ら、一月前には主要穀産地方に於て六〇%以上のコルホス化ありと認めたるも今は四〇%の共營化確立を示さばそれが最大の達成であらうと謂つてゐる(ソウエート聯邦事情)第二號一二頁。然るに其以後に於てコルホスは急激なる衰退を示したと傳へられる。尤も「U. S. S. R. の國民經濟」第十三號(七月)の報道に據れば、今春の播種面積は左記の如く共營國營農場約四〇%、個人經濟約六〇%の割合となつてゐるが、

コルホス	三三、〇四五、〇〇〇ヘクタアル	三七・一%
ソウホス	二、九三四、〇〇〇	三・三%
社會的經營合計	三五、九七九、〇〇〇	四〇・四%
個人經濟	五三、六一一、〇〇〇	五九・六%
計	八九、五九〇、〇〇〇	一〇〇%

別の報道によれば脱退者續出の形勢は遙に重大に見受けられる。

前記の報道によると、コルホス参加者の全國農家總數に對する比率は三月一日には五五%に上り、莫斯科州では七三%にも達した位であつた。然るに、三個月後の六月にモロトフが黨中央委員會を代表して報告する所に由れば、五月二十日現在の全國比率は二五%に急下して居る。若し事實とすれば、これは五十日間にコルホスに参加した農民の半數以上が脱退したことを意味する。甚しいのは莫斯科州で、共產黨中央委員會代表者カガノキッチの報告によれば、同州に於ける比率は七三%から六月一日の七%に墜落した。これでは殆ど滅亡に近い衰退である。此の急激なる衰退は、スターリンの第十六回全露共產黨大會での報告には言及され

て居らぬ。併し「ソヴェート聯邦事情」第四號第一〇、一一頁にはモロトフ及びカガノキッチが前者は共產黨レニングラード州會議席上で、後者は第二回共產黨莫斯科州會議席上で右の通り報告したと明記してある。此點は關係する所極めて重大であるが、私は自ら直接原資料に就いて吟味する便宜を持つてゐない。たゞ念の爲めに報道の出所を擧ぐれば左の如くである。

Отчетный Доклад тов. В. Молотова о работе ЦК ВКП на III областной ленинградской партконференции. (Известия. 11/VI 1930)

Доклад тов. Л. Карановича о работе ЦК ВКП на II Московской областной партконференции. (Известия. 8/VI 1930)

如何にして斯る急激の變動が起つたのであらうか。それを知るにはコルホス運動と中農との關係を見なければならぬ。中農の數量的勢力は前記の如くであり、數字は算定者に依て必しも一定しないが、兎に角これが農民中の最も重要な一階層であることは論を俟たぬ。元來レニンは中農と協力して富農に當れといふことを説き、勞農政府も中農がコルホス運動の中堅を成すもので、此層の向背如

何に由て運動の成敗が岐れるといつてゐるが、而かも實際にコルホスの組織に於ては中農を無視し、比較的多くの生産手段を携へて参加する中農に對して何等の特恵を與へざるのみならず、コルホスの指導幹部を貧農から選び、中農を冷遇した(「ヤアコフレフのソヴェート聯邦事情」第四號八一―九頁)。然るにコルホスに對する農業機械の供給は前記の如く甚だ不充分であるから、コルホスは今後尙久しく中農所有の農具役畜に倚賴しなければならぬ。然るにこれを有する中農が、其點に就いて何等の顧慮を加へらるゝことなくして能くコルホス員たることに満足するであらうか。中農はその提供せる資本に對して必ず差別待遇を求めらるであらう。トロツキイは實に此點を指摘して勞農當局者を攻撃したのである。曰く、困難なる問題はコルホスの収入が如何に分配されるかといふとである。「コルホスに二頭の馬匹を提供した農民が、コルホスに二本の腕のみを提供した以前の「バトラアク」勞役農に比し餘分の分配を受けるであらうか。若しも「資本」に對する利息が認容せられないとするならば、誰も自己の財産を無代で提供するものはあるまい。其場合には國家はコルホスに必要な器具を新規に供給すべき力不相應の

課題を負はされる。若しも資本の利息が認容されるならば、コルホスの内部に於て差別化が行はれる。而してコルホスが細分化農業經濟に比較して、著しい利益を擧げる場合には、差別化はコルホスを通じて今日以上に速に行はれるであらう。又多くの勞働者を有する家族は一人の勞働者を有する家族よりも多くの収入を求めらるであらう。その賃銀をコルホスが拂渡さずに借入金として農具の購入又は運轉資金に充てるならば、これに對して利息を支拂はねばなるまい。こゝにもコルホス内での差別化が起るべき原因がある。(聯邦事情第四號第九、十三頁)

此のトロツキイの見解は至當である。中農の特殊的地位を承認すれば、確に此の差別化が起るであらう。併し乍ら、若し彼等の特殊的地位を承認しなければ、彼等はコルホス内に留まることを欲せぬであらう。元來多數の中農がコルホスに参加したのは、強制に會つて已むなくしたのであること今日では何人も争はぬ。共産黨幹部も此事を容認して、三月十五日の指令で所謂「黨方針の歪曲」を戒めた。それは要するに性急、且つ粗暴不法なる強制政策を排して、自由意思の原則を強調したのである。果然、此指令の發表せられて後、農民は續々群をなしてコルホスカ

ら脱退した。上述の數字は充分此事實を示してゐる。此事は又中農のコルホス参加が如何に自由意思によらずして強制的に行はれたかを最も雄辯に物語る。従つて今後中農をコルホスに誘致せんが爲めには特に彼等を優遇する方法を講ぜねばなるまい。といふ事は、結局彼等の所有する生産手段に對して何等かの顧慮を與へるといふことに歸着するであらう。

併しコルホスから脱退したものは中農許りではない。前記の如く五五%が二五%に下つたといへば、無論貧農も脱退したのである。此事實を如何にして説明すべきであるか。それは結局土を耕す農民の個人主義にあるといはねばなるまい。所謂所有の魔力は砂を變じて金たらしむといふ、その農民の私有地に對する強靱なる執着力が此事を説明するであらう。

而して強制的手段を用ゐざる限り、コルホス参加農民をよし現在以下に減少せざる迄も、少くも之を著しく増加せしむる望みがないやうである。果して然りとする時は、全農家總數の七五%は今後尙ほ私營農民として残るものとしなければ

ならぬ。此の七五%に對して勞農政府は如何なる處置を取らんとするか。抑も
コルホス運動を起した理由は穀物買付の失敗にあつたこと前述の如しとすれば、
此の多數の私營農民に就いて當初の問題は依然として未解決の儘に残る。若し
たゞ現状の儘を放置すれば、穀物買付の成績は依然として不良であらう。その成
績を擧げる爲めには、ブハリン等の主張したる如く、營利主義の原則に依て彼等を
刺戟するか、或は前段に述べ來つたやうなコルホス促進運動に依るか、何れかにせ
ねばなるまい。併し強制壓迫の行はれ難いことは今證明された許りであるから、
結局現状を維持するのではないか。第十六回共產黨大會の農業問題報告テエゼ
は、コルホスと個人經營とが對立の關係に陥ることのないやうに戒め、黨の諸機關
が聯邦の多數地帯に於て尙ほ比較的永く存続すべき個人經濟を何等輕視せざ
ることを警告してゐる。(五)又同じテエゼは、單獨經營者を疎外せず、進んでこれ
を援助し、努めて共營農場に誘致すべき制度の確立を要求するといつてゐる。聯邦事
情第三號第二七頁。併し乍ら強制壓迫を廢して如何なる「誘致」の手段があるであ
らうか。たゞ考ふべき最も重要な要素は、農業機械の豊富なる供給である。農

業機械の供給が豊富となつて、コルホスがトラクタ、其他を自由に使用し得るこ
とになれば、少くも技術上中農所有の農具に依頼する必要が消滅する。其曉に若
し自己の土地を自己の家族と共に耕作せんと欲する中農の個人主義が左程根強
いものでないとするれば、コルホスへの參加誘引は相當に力強いものとなるであら
う。併し許多の經驗が示してゐる通り、彼等の個人主義は根さしが極めて強く深
い。故に農民が強制を俟たずして自らコルホスへ參加せんとするのは機械の利
用に依てコルホスに於ける生産力が著しく増進し、個人經濟がその低廉なる生産
物の競争に堪へ得なくなつた時であると思ふのが安全であらう。併し此場合の
競争の壓力も、貧農中農に對しては餘り力強く作用せぬであらうと思はれるのは、
少くも穀物に就いては、彼等は概ね其收穫の多くの部分を自ら消費し、残りを市場
へ出すのであるが、その市場へ出る部分は割合に少なく、而かも價格の壓迫を蒙る
のは農民の生産額全部でなくて、此の市場へ出される部分のみだからである。又
假りに、コルホスに参加しても先に述べた分配の問題が依然として大きい難關と
なるであらう。農民をして極度の勉強に堪へしめるものは、彼等の土地に對する

愛着と自ら自己の生産に依頼せねばならぬ必要とであつた。今若しコルホスに於て各個人を各個人の生存に對する責任を持たぬことゝなつたならば、協同觀念の乏しい農民をば何者が驅つて勤勉ならしめるであらうか。此場合には無論何等かの方法を以て農民の報酬とその勤勉とを結付けて之を獎勵刺戟する方法を講ぜねばなるまい。而して土地、農具、又は多くの勞働力を有する農家は無論それに對する顧慮を受けねば承知せぬであらう。而かも共產黨は未だ公けには此分配原則を定めてゐないやうである。

又播種、耕作、收穫、分配の實行上にコルホス參加の農民は何人の指揮を受けるのであるか。何れそれは外來の専門指導者、勞農政府は指導の養成に極力努めてゐるか、組合員中より選拔せられた當任者か何れであらう。然るに嘗て英佛其他で勞働者生産組合の試みられたる時、その失敗に終つた原因の一是、組合員たる勞働者が指導者たる支配人の主人たる位置にある爲め、その命令に服従せずして經營上の規律を保つことが出来なかつたことであつた。文化の程度の低い露西亞の農民に果してそれ丈の訓練が修得し得らるゝであらうか。

次に組合が假りに存續するとして、組合的利己心が個人的利己心に取つて代るといふことが起らぬであらうか。換言すれば、個人たる農民は成るべく工業品の低廉で、農産物の高價ならんことを欲したのであるが、コルホスと雖も此點全く同一ではなからうか。生産せられた穀物は個人のものではないが、その集合體たるコルホスのものである。而してその成員の受取る報償は農産物賣上代金から支拂はれるのである。さうすれば、コルホスと雖も矢張り農産物價格の高價ならんことを欲し、若し政府の買上價格が其意を満たさぬ場合に賣惜しみをなし、強制的に徵發せんとすれば、之に對して抵抗するといふことも當然起り得る筈である。たゞ從前の農民にあつては、個々の農民か或は少數の團結が買惜しみをなし、若しくは抵抗をしたのである。若しコルホスが或程度迄普及した曉には、團結せる農民がプロレタリア獨裁政府に對抗する形勢となる。全人口の八割を占めるといふ農民の大部分が穀物の生産者たる共通の利害擁護の爲めに團結し、且つその政治的勢力を自覺して、憲法上與へられたる其權利を行使するといふことになつたならば、それは勞農政府に取つて決して輕視し難き脅威であるであらう。